

ハイチ地震・チリ地震緊急報告

CODE海外災害援助市民センター
理事・事務局長 村井 雅清

ハイチ地震

2010. 1. 12

マグニチュード 7.0



ハイチ版ボランティア元年

ハイチ大地震 助け合う市民 ボランティアの動き広がる

1月27日12時6分配信 [毎日新聞](#)



拡大写真

避難所でおそろいのTシャツを着て活躍している「市民アクション」のメンバー＝ポルトープランスで2010年1月25日、梅村直承撮影

【ポルトープランス庭田学】12日の大地震発生から2週間がたったハイチで、ハイチ人自身が被災者のためのボランティア活動に乗り出している。ボランティアの大半は自らも被災して路上で避難生活を送っているが「みんな被災者、助け合いたい」と支援物資の配布作業の手伝いや、被災者キャンプの清掃などに取り組んでいる。略奪や暴動などが報道されているハイチだが「共生」への希望も見え始めた。

[【写真特集】ハイチ大地震 広がる被害](#)

被災者が多く生活する首都ポルトープランス中心部の広場では、おそろいの黄色いTシャツ、黄色い帽子的ボランティア団体「市民アクション」のメンバーの姿が目立つ。胸には、公用語の一つクレオール語で「きずな」と大きく書かれている。スポーツ省に所属する団体で、20代の若者が中心。震災前から社会奉仕活動をしている若者で、避難所では支援物資の配布作業などを手伝っている。暗くなりがちな被災者キャンプの中で、その笑顔は輝くようだ。

だが、ボランティアの大部分も被災者だ。約30人のメンバーに屋外で避難生活を送っている人はいるかとたずねると8割が「ほとんどみんなだよ」と言いながら手を挙げた。

避難所での活動には約650人が参加する予定だったというが、被災しているために来られないメンバーもいるという。

メンバーのオーベンスさん(25)は「活動は国のため。みんなが被災者なのだから、助け合うことが必要だ」と話す。パプリトさん(23)は「ハイチには教育やインフラなど何もかもが足りない。ボランティア活動が少しでも役に立ってほしい」と話す。

公園や広場など避難生活者が集中する路上には、ごみが山積みになり、悪臭を放っている。ごみ収集車が時折作

四川大地震 飲めぬ水、電気・ガス不通

助け合い命つなぐ

【都江堰（中国四川省）】小山謙太郎 四川大地震で、都
市部で最も被害が大きかった都江堰市。5日目を迎えた16日
も水道が一部で復旧しただけで、電気やガスは使えない状態
が続く。だが、全国からボランティアが集まり、街は
復興へ向けて少しずつ動き始めている。 Ⅱ一面参照



近郊の農家の炊き出し。市街でがれきを片づけて
いた住民らが駆けつけ、煮豚と温かいご飯をかき
込んだ。16日正午、都江堰市中心部、小山写真

炊き出し、携帯無料充電

(2008.5.17 朝日新聞)



街の中心部で、「唐山農民
抗震救災隊」と書かれた赤い
ワゴン車に出会った。1997
年、24万人が犠牲になった
唐山地震。あの被災地から駆
けつけた農民14人だ。
朱永山さん(61)は28歳のと
きに被災した。「薬品や食料
をたくさんもらった。その恩
返しがあった」。2千の
道を日かけてやってきた。
都江堰ではまた、建物の安
全が確認されるまでは自宅で
寝泊まりすることが禁じられ
ている。大勢の人が公園や学
校の校庭にテントやビニール
シートを張り、夜露をしのい
でいる。
ライフラインも、回復から
はほど遠い。電気は送電線の
復旧は終わったものの、変圧
器が不調でまだ使えない。ガ
スは全市で使えず、復旧のめ
どもたっていない。水は水圧
が低いため1階で使えるだけ

(2008.5.16 朝日新聞夕刊)

仲間の命この手で

【成都（中国四川省）】轟轟ひな子 大地震に負われた中国四川省の
省都、成都市で、市民の間に被災地支援の動きが広がっている。救災物資
を受け付ける拠点が市内にいくつも設置され、スーパーで買った飲料水な
どを市民が次々と持ち込んだ。被災地で大きな被害を受けた生徒たちと同
世代の若者が「いなくてもたつてもいられない」と、物資運び出しのボランテ
ィアに汗を流している。 Ⅱ一面参照



市民から届けられた衣類を被災地向けのトラックや倉庫に運ぶため15日、
市内全域から多くのボランティアが集まった—中国四川省成都、冨森写真

四川・成都 若者ら物資リレー

成都市中心部には、10カ所
以上の物資受付拠点ができ、
16日も朝から救災物資を持ち
込みでつづけた。目ま
ぐるみに搬送された紅十字会
の拠点には、乗用車やタクシ
ーで横付けした市民らが、車
内いっぱいには積んだ段ボール
箱などを運び込んだ。
市民から寄せられた大量の
救災物資を、被災地に向かう
トラックや倉庫に運ぶのは、
高校生や大学生ら若者を中心
に集まった約500人のボラン
ティアだ。100ほどにわた
って列をつくり、バケツリ
レー方式で次々と手渡した。
市内の学校が休みだった15
日朝から作業に加わっていた
成都市の高校2年、胡瀚丹さ
ん(17)は「被災地では同じ高
校生が授業を受けながら生き
埋めになっている。いでもた
つてもいられなかった」。別
の女子生徒(16)は「筆記用具
を持ちながらつくった被災
地の生徒のニュースに、とて
もショックを受けた」と、な
ごも手伝いたい」と両を
請らせた。
四川省商部の宣費から乗用
車で成都に来た男子学生(28)

中国版ボランティア元年

国際災害支援のあり方は

基調講演 受け入れ側の備えも大切

国際協力機構副理事長

大島賢三さん



大島賢三さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。

被災地が海外からいつの間にか援助を受けるのが、国として受け入れる側は、日本では、被災地が海外から援助を受けるのは、受け入れる側の備えが重要だ。大島副理事長は、被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。

21世紀文明シンポジウム

番匠 幸一郎さん



番匠 幸一郎さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。

村井 雅清さん



村井 雅清さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。

番匠 各国の役割事前調整必要
村井 被災者に寄り添い活動

「災害をめぐめる国際協力の仕組みづくり」をテーマにした「21世紀文明シンポジウム」(ひょうご震災記念21世紀研究機構主催、神戸新聞社など後援)が2月26日、神戸市中央区のANAクラウンプラザホテル神戸で開かれた。アジアで多発する自然災害にどう備えるか。日本の果たすべき役割は何か。国際協力機構(JICA)の大島副理事長の基調報告を受け、自衛隊、非政府組織(NGO)、日中の専門家が意見を交わした。(記事・岸本達也、写真・岡田青穂)

大島副理事長は、被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。

番匠副理事長は、被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。

村井副理事長は、被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。

「被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。」

楊 団さん



楊 団さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。



河田 恵昭さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。



五百旗頭 真さん
国際協力機構(JICA)副理事長。1967(昭和42)年に外務省に入省し、国連事務次長(人道問題担当)や駐オーストラリア大使、国連大使などを経て現職。

楊副理事長は、被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。被災地が海外から援助を受けるには、受け入れる側の備えが重要だ。

パナリスト

国際協力機構副理事長
COO(海外国際協力)センター事務局長
中国紅十字会国際交流部副部長
人オシロ来未センター長
河田 恵昭さん
五百旗頭 真さん

河田 各地でNGOの育成図れ

楊 各地でNGOの育成図れ

河田 各地でNGOの育成図れ

楊 各地でNGOの育成図れ

河田 各地でNGOの育成図れ

楊 四川大地震の被災地にも、国内各地のボランティアが多く集まった。自分も力になりたいという気持ちで芽生えた。残った地元ボランティアがNGOとして発展しつつあり、育てないといけない。

震災大チハイ

支援の手神戸からも

CODE、研究員派遣や募金

大きな被害を出したハイチ大地震を受け、間もなく丸15年を迎える阪神大震災の被災地神戸でも、現地への救援活動が始まった。

阪神・淡路大震災をきっかけにして災害救援を目的に設立された市民団体、CODE（海外災害援助市民センター・神戸市兵庫区）

は、ハイチ大地震を受け救援活動を開始。CODEの海外研究員でメキシコ国籍のクワテモックさんを20日に現地に派遣し、情報収集を進めることを決めた。併せて募金活動を開始し、救済資金を集める。

クワテモックさんはメキシコ地震以来、NGOとし

て被災地の復興に協力。現地に10日間ほど滞在し、具体的な支援策を調べるという。特に倒壊家屋については、阪神・淡路大震災の経験を生かし耐震技術を広める活動にあたることを検討している。

CODE事務局長、村井雅清さん(59)は「首都の中核が壊滅的被害を受けており、どこから手を付けるべきか判断が難しいと思うが、今後の復興を見据えて活動したい」と話している。

またコープこうべ（神戸市東灘区）も15日、1月から県内146店舗に設置している災害緊急支援基金（ハート基金）から50万円を救援活動のため拠出した。

「1・17心」

東灘・本山中 被災の
防災の集い

震災で大きな被害を受けた神戸市東灘区の市立本山中学校（林弘伸校長、68人）で15日、全校生徒が参加しての防災訓練と「防災の集い」が開催された。今回は阪神大震災から15年



海外災害援助市民センターは、チラシを作成するなどしてハイチ大地震救援の募金を呼びかける

神戸市兵庫区

神戸からハイチへ 応援メッセージを送ろうキャンペーン

1月12日に発生したハイチ大地震。
その壊滅的な被害は、連日私達日本に住む私たちの元へ届けられています。
国際社会は、ハイチの被災者支援に向けて動いています。
日本からも様々な支援物資、義捐金が送られ始めました。

そんな中、ラジオ関西では、神戸からハイチの被災者を励ますメッセージを送ることを呼びかけます。

15年前、阪神淡路大震災。ラジオ関西は震災直後から放送を続けました。
被災者からは2万件の安否情報が寄せられ、
「ラジオから届く情報に、メッセージに励まされた。物資と同じくらいありがたかった」という声を多くいただきました。
大地震のショックに打ちひしがれる中で、何より先心強いのは「つながり」。
「あなたたちを見守っているよ」「応援しているよ」というメッセージもまた、ハイチの被災者への「支援」になるはずです。

集まったメッセージは、現地の言葉に翻訳し、新聞に掲載するなどして伝えます。
ぜひお寄せください。
※CODE海外災害援助市民センター協力

方法①メール

メールアドレス:hyogo15@jocr.jp
文字数は、140文字以内でお願いします。

方法②Twitter

twitterで「#haitijp」とハッシュタグをつけ、文頭に「◆」をいれて140文字以内でつぶやいてください。
番組twitterはこちら: <http://twitter.com/hyogo15>



〈大阪在住のハイチ人から被災地へのメッセージ〉

ハイチの皆さん。いつでも行動する意欲のある黒人たちよ。

今、世界中の人々がハイチで起こっている惨事について知っています。ハイチが傷つきそして苦しみ、悲しみにくれていることを人々は理解しています。

私たちはパニックになる必要はありません。神様だけがその訳をご存知です。落ち着いて、祈りましょう。私たちは生まれ変わり、そしてハイチがもっと美しい国になることを。ハイチの人は本当に美しい心を持っていると私は信じています。

外国の人たちに私たちを助けに来てもらうために、いくら多くの問題があったとしても今は争い事をしてはいけないということを、私たちはわかっています。

私たちはみんな兄弟姉妹であり、共に食べ、水を分かち合うなどして、チャンスを手に入れましょう。たとえお金持ちでなくても、輝かしい命をつなぐために。

豊かさとは、人が他を思う愛です。だから私たちは立ち直って、再建や教育、組織、尊敬、団結、真剣な行いに対して共に考え共に行動することで、新しい国ハイチを築く望みを持ちましょう。頑張りましょう。私は日本に住む1人のハイチ人です。ハイチの1人でも多くの人を救いたいと考えています。



メキシコ人研究員クワテモック さんを派遣

- ・日本からのメッセージをラジオ局に届ける
- ・各国からの救援チームとミーティング
- ・レオガン周辺の被災したコミュニティをまわる





・レオガン周辺の被災したコミュニティにモバイルクリニック







高校生にハイチの被災状況について語るピエールマリ・ディオジェンさん＝9日午前、大阪府富田林市の金剛高校、伊藤恵里奈撮影





チリ地震・津波

2010. 2. 27
マグニチュード 8.8



チリ津波避難3.8%

専門家、「予断」に警鐘

南米チリの大地震による津波で避難指示や勧告が出た地域の住民のうち、避難所などで実際に避難が確認された人の割合は、ピーク時でも8・8%にとどまる。ところが、総務省消防庁のまとめでわかった。把握しきれない避難者もいるとみられるが、06、07年に津波警報が出た際の避難率よりも大幅に低くなっており、専門家は一第1波が予測より小さかったという情報が、避難しなくてもいいという予断につながったとしたら危険だ」と警告している。

都道県の189市町村。対象人口は約168万人で、このうち市町村が避難所などに避難していることを確認した住民は6万3千人(3・8%)だった。大津波警報の発表地域では平均7・5%だったが、津波警報の地域は平均2・8%だった。

1万人以上に勧告や指示が出された道県のうち、最も避難率が高かったのは岩手県(対象8万3千人、避難率12・2%)で、次いで北海道(同11万人、同6・8%)▽宮城県(同19・1万人、同6・6%)▽沖縄県(同23・6万人、同5・6%)▽福島県(同1・7万人、同5・5%)の順だった。

06年11月と07年1月には、千島列島の地震で北海道と東

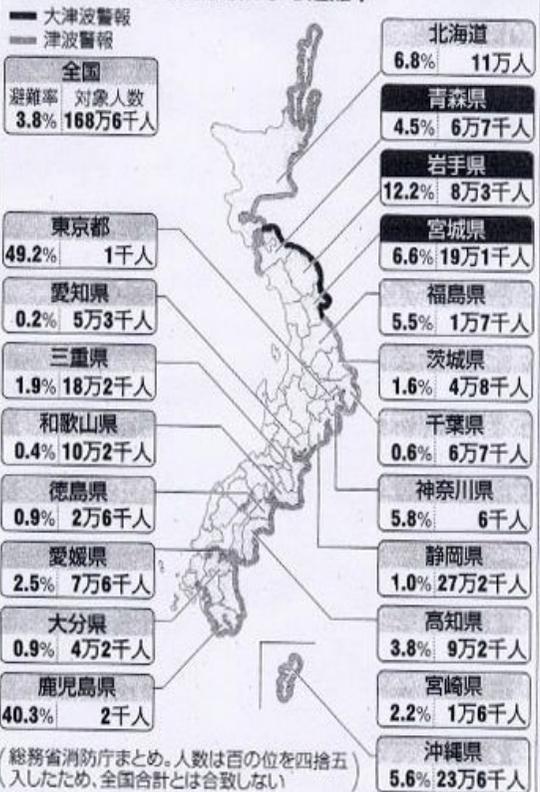
北地方のいずれも22市町村に津波警報が出たが、消防庁の同様の調査で、避難率はそれぞれ平均13・6%と同8・7%だった。

避難率が0・9%と低かった徳島県。避難勧告を出した、南部にある美波町の影治信良町長は「報道で予想される津波の高さを見た住民が

「規模は大したことない」と判断したのではないかとみる。影治町長は「町としても『予想されるより小さそうだ』と思い、住民に強く避難を求めなかった」と話した。

片田敏孝・群馬大教授は、避難住民が少なかった点について「ニュース番組などで到

都道県別のチリ地震津波による避難率



大地震後も活動を続けるチリ中部コンセプションの消防士=5日 (共同)



■ チリ大地震 ■

大地震に見舞われたチリ 奪や放火が多発した中部
リでは、消防士は全員無 傷のコンセプションでは、
報酬のボランティアだ。被災した消防士たちが自
多くの人命が失われ、略 分の家族の世話や生活再

町のため…誇りが支え

建を後回しにしたまま、
救助や消火、水の配給に
奮闘している。

市庁舎や銀行、商店街
が密集する中心街を受け
持つ第1消防署。2月27
日未明、3階で同僚6人
と当直中だったフランシ
スコ・バルマさん(21)は
大学生は、激しい揺れ
でベッドからすり落ち
た。わきに置いた防火服
を数秒で着込み、消防車
に飛び乗った。

15階建てマンションが
倒壊した地区には土煙が
立ち込めていた。「部屋
にお母さんが取り残され
たの」。住民が泣き叫ぶ。
バルマさんは窓から入
り、ベッドがひっくり返
った寝室へ。約1時間後、

妻子残し命懸けの日々

男女7人を救出した。「消
防士実利につきる」と胸
を張る。
懸けのボランティアだ。
(市当局者) といひ、命

ぬいぐるみを持ったま
ま庄死した女兒、血たら
けの負傷者。休眠先が
駆け付けたエルネスト
・エスピノサさん(21)は
大学生も、惨状を自の
当たりとした。夜明け後、
ボンブ車で水を被災者5
00人以上に配った。感
激して泣きたす人や、拍
手する人も。エスピノサ
さんは「熱いものが胸に
込み上げた。消防士にな
ってよかった」と話す。

市内に消防署は計10あ
り、1883年創設の第1署
は「お金にはならない
1署など計3署が地震で
全壊状態。約80人の第1
署員は交代で署の前のテ
ントで寝泊まり。署員や
その家族に死者はなかつ
たが、半径500m以内にあ

消防士は全員ボランティア

(コンセプション共同)